

2－1 県民生活

【統計データ等に見る県民生活の概況】 ※ 医療、保育については、2－2から2－4を参照。

平均合計特殊出生率・・・1.78、全国1位(H20、全国平均1.37)

平均寿命・・・男性78.64歳(全国26位)、女性86.88歳(全国1位) 男性の順位低下については、飲酒の影響、食生活の変化等諸説あり。
* 自殺者数・・・337人(H20)、自殺率24.5(H20、全国30位)。内訳は壮年層が多く、理由は「健康問題」が1位。H21は年前半で227人と過去最悪ペース。

婚姻率・・・6.50(人口千人当たり)、全国2位(H17)

離婚率・・・2.71(人口千人当たり)、全国1位(H17)

物価・・・95.3(全国平均=100)(H20 平均消費者物価地域差指数) *ただし、那覇市では食料が101.4(全国=100)となるなど品目、地域により異なる。

生活・・・男性は交際・付き合い(34分/日、全国は20分)、スポーツ(25分/日、全国は19分)などに、女性は子育て(30分/日、全国は22分)に費やす時間が全国と比較して相対的に多い。(H19 総務省社会生活基本調査)

* 小中学生の生活習慣・・・【小6】朝食毎日食べている85.8%(全国88.5%)、規則正しい起床56.2%(全国61.0%)、【中3】朝食毎日食べている80.6%(全国82.2%)、規則正しい起床59.7%(全国55.9%)(H21全国学力・学習状況調査) → 子どもの学力に影響?

【県民意識調査に見る県民生活】 出典:琉球新報社 沖縄県民意識調査報告書(2001年、2006年)※5年毎に実施。

家族に対する強い愛着が見られる一方、近所付き合いの希薄化、行事離れなどの傾向が表われつつあるのではないかな。

質問項目	2001年	2006年
現在、あなたが生活で悩んでいることを3つ選んで下さい。	収入・所得 41.6% 仕事 35.8% 介護や老後の問題 35.7% 健康 35.6%	収入・所得 47.0% 介護や老後の問題 43.1% 健康 41.2% 仕事 28.3%
生き甲斐にしてきたことは何ですか。	家族の幸せや健康 60.1% 仕事や事業の成功 12.9% 趣味 9.0%	家族の幸せや健康 62.8% 趣味 10.9% 仕事や事業の成功 10.4%
あなたの隣近所との付き合いはどの程度ですか。	とても盛んだ 16.4% 普通に会話する程度、あいさつ程度 78.5%	とても盛んだ 12.6% 普通に会話する程度、あいさつ程度 82.9%
あなたは地域の行事や祭りに参加していますか。	良く参加する、たまに参加する 57.8% ほとんど参加しない、まったく参加しない、行事がない 41.1%	良く参加する、たまに参加する 49.8% ほとんど参加しない、まったく参加しない、行事がない 49.2%
あなたは模合に参加していますか。	している 41.5% していない 57.9%	している 45.2% していない 54.3%
沖縄の伝統的な祖先崇拝についてどう思いますか。	とても大切だ、まあ大切だ 86.7% あまり大切と思わない、まったく大切と思わない 4.9%	とても大切だ、まあ大切だ 92.3% あまり大切と思わない、まったく大切と思わない 4.2%
トートーメー(位牌)の継承についてどう思いますか。	どちらが継いでもいい 50.6% 男性が継いだ方がいい 28.4%	どちらが継いでもいい 42.7% 男性が継いだ方がいい 37.0%

2-2 県民生活

保健医療体制の充実

I 現状・取組み

<医療提供体制>

- 多くの有人離島を抱えるため県の主導により医療体制を確保
 - ・県立病院 → 6病院(県内の各医療圏に設置(南部は精神科病院も設置))
 - ・県立診療所 → 16診療所(離島に設置)
 - ・公立病院 → 久米島(人口:8,883人)に公立久米島病院を設置

<医師確保>

- 本土復帰時と比較すると改善され、医師数はほぼ全国平均
- 医療圏ごとに見ると南部を除き医師不足の状況(全国以下)

(内閣府の支援内容)

無医地区医師派遣費等補助金(補助率 3/4)

⇒沖縄県が実施する離島の県立診療所の医師確保や代診医の派遣、中核病院の専門医の確保等に対し補助金により支援

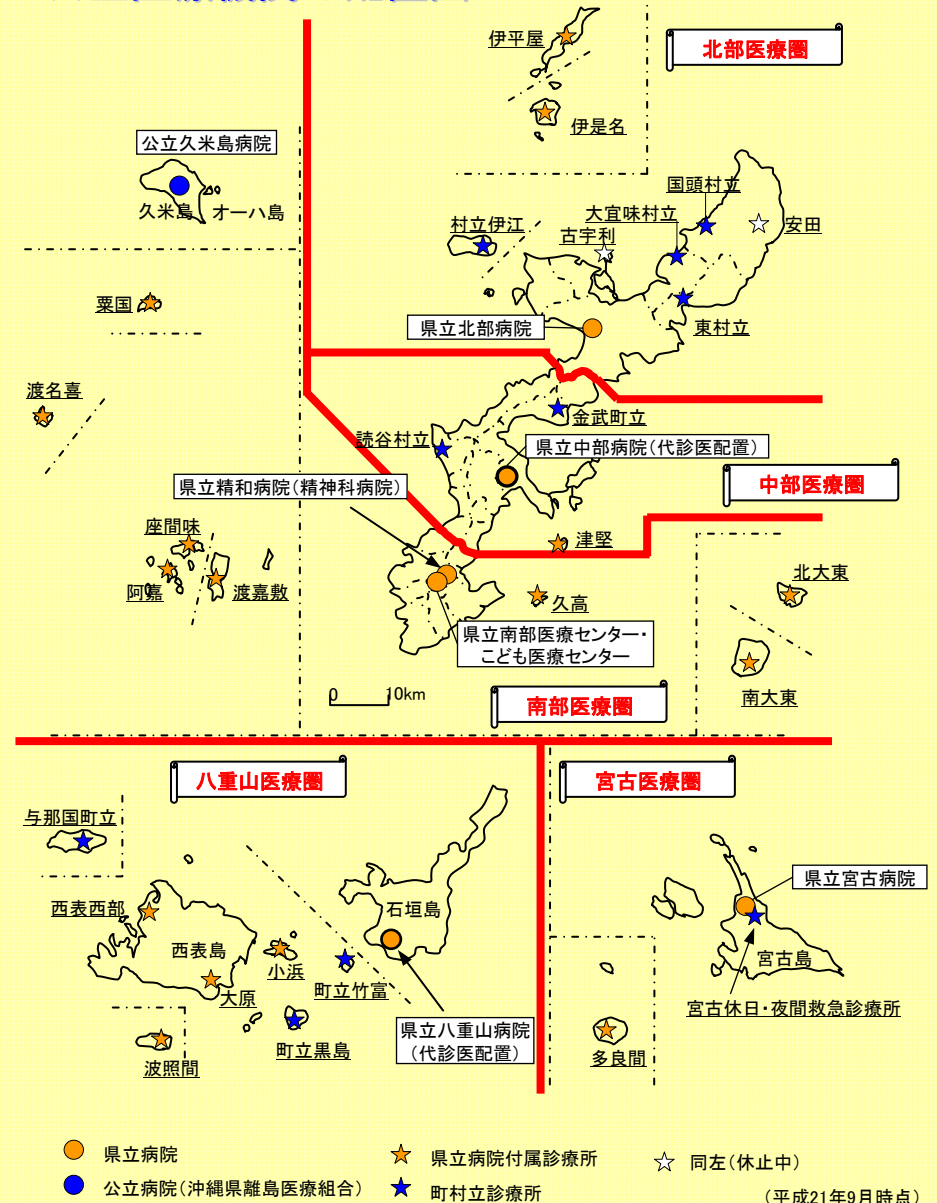
II 医師確保の推移・状況(医療施設従事者)

		1次振計	2次振計	3次振計	沖振計	
		S47	S57	H4	H14	H18
10万人あたりの医師数	沖縄	39.6	91.1	153.0	179.5	208.3
	全国	110.9	135.1	169.9	195.8	206.3

全国との比較	実数(H18末)		人口10万人対		
	沖縄県(人)	全国(人)	沖縄県(人)	全国(人)	対全国比(%) 昭和47年→平成18年
医師数	2,849	263,540	208.3	206.3	35.7%→101.0%

圏域別の比較	実数(H18末)					人口10万人対				
	北部	中部	南部	宮古	八重	北部	中部	南部	宮古	八重
医師数	177	806	1703	87	76	171.8	172.6	246.1	161.1	146.2
対全国比(%)						83.3	83.7	119.3	78.1	70.9

III 公立医療機関の配置図



2-3 県民生活

I 現状・取組み

<医療施設整備>

○現計画期間中は県立病院等の整備を順次実施

- ・県立南部医療センター・こども医療センター(平成18年4月開院)
- ・沖縄赤十字病院(整備中(移転・新築:平成22年6月開院予定))

○来年度より県立宮古病院の建替えを予定(H25.5開院予定)

○内閣府は県等が実施する医療機関等の整備費を支援

(各県立病院の竣工時期)

- ①県立北部病院(平成3年10月竣工)
- ②県立中部病院(平成13年6月竣工)
- ③県立南部医療センター・こども医療センター(平成18年3月竣工)
- ④県立宮古病院(本館)(昭和51年8月竣工)
- ⑤県立八重山病院(昭和55年3月竣工)

(内閣府の支援内容)

医療施設等施設整備費補助金(補助率 3/4)

⇒沖縄県や市町村が実施する医療施設、医師住宅等の整備費に対して補助金により整備費支援

II 主な整備施設



南部医療・こども医療センター
(H18.4開院)



沖縄赤十字病院建設状況
(H22.6開院予定)

III 病床整備水準の推移

		1次振計	2次振計	3次振計	沖振計		
		S47	S57	H4	H14	H15	H18
10万人あたりの一般病床数	沖縄	179.2	561.2	1017.1	1039.6	707.9	718.4
	全国	607.3	828.5	1016.2	994.4	720.2	713.0

※H15統計より一般病床から療養病床が除かれたため数値が大幅に変動している。

IV 今後の課題

<医療提供体制、医師確保>

○離島・へき地の中核病院における専門医の確保(産科医等)

○各医療圏にバランスのとれた医師配置(地域間の公平)

(専門医(産科医、脳神経外科医等)の配置状況)

- ・県立北部病院は、本年9月末より産科医2名(定員4名)体制のため、診療体制を制限中。(救急対応を原則禁止、外来診療を予約制)
- ・県立宮古病院は、脳外科医不在により休診中(H17.10~H20.1)であったが、H20.2より1名配置し診療を再開。

※宮古医療圏で脳外科手術ができる病院は、県立宮古病院のみ。

<医療施設整備>

○離島の中核病院の整備(県立宮古病院→県立八重山病院)

○病院事業経営の健全化を図りつつ、県立病院が果たすべき医療を提供できる整備が必要

(県立病院が果たすべき医療)

- ・採算性等の面から民間医療機関では困難な医療の提供
- ・沖縄本島から遠い離島地域の宮古、八重山医療圏では、可能な限り圏内で医療を完結できる医療提供体制が必要

2-4 県民生活

認可外保育施設の認可化促進及び質の向上

I 現状

○厚生労働省の施策(全国ベース)により、私立の保育所の施設整備費補助や認可外保育施設を対象とした研修会等を実施。

○沖縄県は、他県と比べて、待機児童数や認可外保育施設の利用児童数が多い。

・待機児童数 1,888人(全国3位) [平成21年4月]

・待機率 5.9%(全国1位) [平成21年4月]

・認可外保育施設の利用率 35% [平成21年4月]

(参考:全国平均 7.5%[平成20年3月末])

※待機率: 待機児童数/保育所の入所児童数

※利用率: 認可外保育施設の入所児童数/(保育所+認可外保育施設)の入所児童数

※認可外保育施設に事業所内保育施設は含まない

II 沖縄県の保育所整備の取組

○平成14年度以降、創設を伴う認可外保育施設の認可化を51箇所で行った。他の整備も含め約6千人の定員増を図った。

整備の種類	H14		H15		H16		H17		H18		H19		H20	
	箇所数	定員増	箇所数	定員増	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数
創設	6	420	14	915	9	525	8	480	14	740	5	400	4	330
創設のうち認可外保育施設の認可化	6	420	11	675	9	525	6	360	12	620	5	400	2	180
増改築等	2	219	5	437	2	393	5	408	11	239	4	217	6	215
合計	8	639	19	1352	11	918	13	888	25	979	9	617	10	545
認可外保育施設の利用児童数	22,312人		22,229人		20,797人		19,947人		19,420人		18,036人		17,312人	
待機児童数	1,621人		2,051人		2,246人		1,884人		1,520人		1,850人		1,808人	
待機率	6.4%		7.8%		8.0%		6.5%		5.2%		6.1%		5.8%	

(用語の説明) ※増改築等の「等」には、分園、第2園、定員増が含まれる。

・創設: 保育所を新規に設置すること。

・増改築: 既存の保育所が施設を拡張して、定員の増加を図ること。

III 内閣府による支援

○現状を解消するため沖縄県に基金を設置し特別事業を実施
＜内閣府の支援内容＞

「沖縄県保育所入所待機児童対策特別事業」

・事業期間: 平成20年度～平成23年度

・主な事業:

①施設改善費や運営費への補助(認可化の促進)

②認可外保育施設の職員への研修会実施(保育の質向上)

・総事業費: 11億45百万円

・補助率: 国8/10、都道府県1/10、市町村1/10

IV 今後の課題

○待機児童解消を図るため、今後も計画的に認可外保育施設の認可化を促進することが必要

○安全安心な保育サービスを提供するため、認可外保育施設の保育士等の更なる質の向上が必要

2-5 県民生活

不発弾処理対策の推進

沖縄県における不発弾等対策については、戦後処理の一環として国が責任を持つとともに、住民の安全確保の観点から、地方公共団体においても責任を持つという役割分担を踏まえつつ、沖縄県の特殊事情に鑑み、国庫補助率の嵩上げや、補助対象の拡大を行うなど、本土に比べて手厚い支援を実施。

なお多くの不発弾等が存在しているという沖縄県の特殊事情に鑑み、不発弾対策について重要な課題として不発弾等対策の効率化・加速化を図り、着実に推進する。

【沖縄県における不発弾等対策の経緯】 ※は沖縄県のみを対象とした事業

昭和49年3月	那覇市小禄での不発弾爆発事故
昭和49年5月	沖縄不発弾等対策協議会設置
昭和50年10月	全国の対策スキームに倣い、探査・発掘に係る経費に対し、沖縄県に不発弾等処理交付金を交付 (補助率を9/10に嵩上げ)
平成元年4月	広域探査発掘事業(※補助率9/10)の創設及び情報収集を交付金の対象化
平成14年4月	市町村の地方単独の公共工事の実施に際した探査・発掘への支援を行う、市町村支援事業の創設(※補助率9/10)
平成21年度当初予算	不発弾等の安全化に向けた処理(土嚢・防護壁設置等)に要する経費(民間工事によるものを除く。)について支援を行う、特定処理事業を創設(※補助率9/10)(21年4月より実施)
平成21年1月	糸満市での不発弾爆発事故
平成21年2月	被害者等に見舞金・支援金を支給すること等を内容とする「沖縄県不発弾等対策安全基金」を国の支出により県に設置
平成21年3月	沖縄不発弾等対策協議会開催 ・埋没不発弾等の磁気探査要領の改定(公共工事における事前探査の原則ルール化) ・「沖縄不発弾等事前調査データベースシステム」の構築
平成21年6月	沖縄不発弾等対策協議会開催 ・磁気探査機器を民間企業等に貸与等する「磁気探査支援事業」の創設方針について決定

【参考】県外から見た沖縄の生活

住んでみたい都道府県(2005時事通信) 1位 沖縄県

魅力的な都道府県・市区町村(2009ブランド総合研究所)

<都道府県> 3位 沖縄県

<市町村> 12位 那覇市 17位 石垣市 19位 沖縄市

県民生活の課題(例)

○一人当たり県民所得や失業率では表現されない沖縄の県民生活の特性・魅力を沖縄振興を考える上でどのように位置づけていくべきか？

3—1 文化の振興

【文化の振興】

豊かな感性と創造性を育む文化の振興や沖縄の文化遺産の保存、管理、活用に向けた取組等を実施。

➤ 芸術・文化の振興

県立博物館・美術館の整備(H19.11)

本土復帰30周年を記念して、H19に博物館機能と美術館機能をあわせ持つ県内初の複合文化施設として開館。沖縄の自然や歴史、文化、美術等の情報発信拠点として、利活用を促進。

➤ 文化財の保護と活用

文化財の指定

琉球国王尚家関係資料(H18国宝)、琉球舞踊(H21重要無形文化財)、小浜島民俗芸能(H19重要無形民俗文化財)などを新たに指定。

世界遺産周辺整備事業の実施

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の世界遺産指定(H12.12)をうけ、観光地としての価値及び観光客の利便性の向上を図るため、世界遺産に登録された城跡等の周辺整備を実施。(平成14～18年度実施)

国立劇場おきなわの整備(H16)

国の重要文化財である「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能保存振興を図るとともに、沖縄の地理的、歴史的な特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることを目的に設置(施設整備予算約111億円(H12～H14))。

【事業内容】①組踊、琉球舞踊、琉球音楽等の公演事業 ②組踊の立方(たちかた)、地方の伝承者の養成事業 ③調査研究、資料の収集、公演記録の作成及び展示、公開 ④沖縄の地理的・歴史的特性を活かした伝統芸能を通じたアジア・太平洋地域との交流事業



国立劇場おきなわ概観

3-2 文化の振興

(参考) 沖縄出身芸能人・スポーツ選手の最近の活躍

【音楽】

安室 奈美恵	MAX
SPEED	Kiroro
Cocco	DA PUMP
夏川 りみ	ORANGE RANGE
D-51	等々

【芸能】

仲間 由紀恵	国仲 涼子
比嘉 愛未	知花 くらら
黒木 メイサ	新垣 結衣
山田 優	川平 慈英
いっこく堂	ガレッジセール 等々

【スポーツ】

宮里 藍（プロゴルフ） 新垣 渚（プロ野球） 諸見里しのぶ（プロゴルフ） 大嶺祐太（プロ野球）
我那覇和樹（プロサッカー） 赤嶺真吾（プロサッカー） 宮里美香（プロゴルフ） 等々

文化の課題(例)

○沖縄のソフトパワーである豊かな文化資源をどのように沖縄振興に結びつけていくか。